



町 長 挨 拶

八重瀬町は2006年1月1日に、隣接する東風平町と具志頭村が合併したまちです。近年では、屋宜原、伊覇土地区画整理事業に伴い大型店舗や企業等の進出により生活利便性の高いまちとして発展し、人口は3万2千人に到達しておりファミリー層を中心とした人口増加に伴う都市化が進んできております。また、全体的に肥沃な土壌に恵まれ農業の盛んなまちであり、田園と都市が調和するまちづくりに取り組んでいるところです。

八重瀬町にはさまざまな地域資源が存在し、八重瀬岳や具志頭海岸に代表される豊かな自然、国内旧石器人骨の代表例である人骨化石「港川人」、県内の村落獅子の中で最大・最古を誇る「富盛の石彫大獅子」などの文化財、獅子舞、綱引き、棒術、エイサー、港川ハーレーなどの行事が伝統として受け継がれています。

また、沖縄の自由民権運動の父・謝花昇や勤労の喜びを謡った民謡「汗水節」の作詞者・仲本稔といった偉人の出身地でもあります。

産業面では、農業が盛んで沖縄県の基幹作物であるサトウキビやピーマン、オクラ、インゲン、小菊、マンゴー、紅いもなどの彩り鮮やかな農作物があり、また、豊かな漁場を有し海の幸も豊富で、パヤオやソデイカ漁を中心に小型船による漁船漁業が営まれており多くの地域資源がまちの誇りとなっております。

この町勢要覧により、八重瀬町のこれまでの歩みと、これからの可能性を存分に感じていただき、八重瀬町の魅力をお伝えできる一冊となれば幸いです。

八重瀬町長 新垣 安弘